

令和5年1月30日

愛媛大学

## 四国人財育成塾シンポジウム

～全世代対応型「地域における知の拠点」として大学はどうあるべきか～を開催

四国5国立大学は、令和3年3月に「一般社団法人四国地域大学ネットワーク機構」を設立し（令和4年3月に文部科学省の「大学等連携推進法人」に認定）、教員養成の高度化を始めとしてさまざまな面で連携、協働するとともに、四国に居住している人材育成を目的とした「四国人財育成塾」の事業を展開しています。

本事業の一環として、四国における「持続可能な地方分散型社会」の実現に資するため、四国全体を包摂する主要課題に係る学術講演会・シンポジウムを四国5国立大学で順次企画・開催し、有為な「人財」の育成を行うこととしています。

このたび、本学が担当となり、リカレント教育を軸に、地域で活躍する人材の育成と地域の発展について意見を交わし、これからの地方国立大学のあり方を考えることを目的としたシンポジウムを開催します。

つきましては、地域へ広く周知いただきますとともに、ご取材くださいますようお願いいたします。

記

日 時：令和5年 2月10日（金） 13時30分～16時45分

場 所：愛媛大学南加記念ホール（オンライン併用）

参加申込：<https://forms.office.com/r/AD4gdVLU0G>

申込締切：令和5年 2月 9日（木） 12時00分

会場定員：100人（どなたでもご参加いただけます）

参加費：無料

※詳細は、別紙チラシをご参照ください。

<お願い>

事前に取材の参加者数を把握するため、取材いただける場合は2月8日（水）までに電話又はメールで下記担当までご一報ください。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場ではマスクの着用及び手指消毒等にご協力願います。

※送付資料3枚（本紙を含む）

本件に関する問い合わせ先

愛媛大学総務部学長室

Tel：089-927-9003

Mail：hisyo@stu.ehime-u.ac.jp

四国5国立大学によるすべての年代の方に贈る「人財」育成事業

# 四国人財育成塾シンポジウム

～全世代対応型「地域における知の拠点」として大学はどうあるべきか～

「地域にある大学（特に地方国立大学）が、その地域で生まれ育った人の一生にどのように関わることができるのか」という観点から、リカレント教育を軸に、地域で活躍する人材の育成と地域の発展について意見を交わし、これからの地方国立大学のあり方を考えます。

【申込み方法】

参加ご希望の方は、下記URL  
または右の二次元コードを  
読み取り、申込フォームから  
お申し込みください。

<https://forms.office.com/r/AD4gdVLU0G>



(締切：2月9日（木）正午まで)

日時

令和5年2月10日（金）  
13:30～16:45

場所

愛媛大学南加記念ホール（オンライン併用）

13:30～ 開会挨拶

佐古 秀一氏（一般社団法人四国地域大学ネットワーク機構代表理事/鳴門教育大学長）  
仁科 弘重（一般社団法人四国地域大学ネットワーク機構理事/愛媛大学長）

来賓挨拶(予定)

中村 時広氏（愛媛県知事）

14:00～ 基調講演

「リカレント教育の振興について」

西 明夫氏（文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課リカレント教育・民間教育振興室 室長）

14:30～ 講演

「地域と共に成長するレジデント型研究 ～スマの取り組み事例を通して～」

後藤 理恵（愛媛大学南予水産研究センター 教授）

（休憩）

15:10～ パネルディスカッション

総合司会進行: 治多 伸介（愛媛大学地域専門人材育成・リカレント教育支援センター センター長）

パネリスト: 山中 英生氏（徳島大学副理事(地域連携担当)、人と地域共創センター 副センター長）

早藤 幸隆氏（鳴門教育大学学校教育研究科高度学校教育実践専攻(教科・総合系) 教授）

堤 英敬氏（香川大学法学部 教授、大学院教学センター 副センター長）

吉用 武史氏（高知大学次世代地域創造センター 副センター長）

正本 英紀（愛媛大学地域専門人材育成・リカレント教育支援センター 副センター長）

16:40～ 閉会挨拶

若林 良和（愛媛大学理事・副学長(社会連携担当)、社会連携推進機構長）

お問い合わせ先

愛媛大学総務部学長室

メール: [hisyo@stu.ehime-u.ac.jp](mailto:hisyo@stu.ehime-u.ac.jp)

電話番号: 089-927-9003

【共催】一般社団法人四国地域大学ネットワーク機構、愛媛大学

【後援】徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、高知大学、四国経済連合会、愛媛県

## 四国人財育成塾設置の趣旨

四国は、わが国を構成する主要4島の中で最小の「island」であり、大都市圏から離れていることもあり、地域の衰退が全国に先駆けて進行している地域である。しかし、デジタル技術の進展によって、大都市圏から離れているという条件的な不利はなくなりつつあり、また、現下のコロナ禍によって、「密でない」地域での居住、労働を志向する人々にとって、有力な転居候補地になりつつある。まさに、わが国が唯一生き残るシナリオとされている「持続可能な地方分散型社会」のモデルとなりうる地域でもある。

四国の4県は、1200年の歴史をもつ「四国遍路道」で結ばれている。四国遍路の中でも、阿波の国は発心の道場、土佐の国は修行の道場、伊予の国は菩提の道場、讃岐の国は涅槃の道場とされているように、現在の四国4県も、同じような気候、風土でありながら、文化、産業などは完全には同質ではない。すなわち、「同質」と「異質」の共存状態であるが、この多様性こそがむしろ、今後の発展の可能性として期待できる。

四国には5つの国立大学がある。その5大学は、教員養成の高度化を始めとしてさまざまな面で連携、協働していくために、2021年3月に「一般社団法人四国地域大学ネットワーク機構」を設置し、この機構は、2022年3月末日に文部科学省から大学等連携推進法人に認定された。大学には、高度な学術研究を基礎に、教育・人材育成、産学連携、地域連携、国際連携など多様な機能が求められている。私ども5大学は、四国における「地方分散型社会」の一層の発展に貢献するため、大学の高度な学術をベースとして、四国に居住するすべての年代の「人材」を「より有為な人材」すなわち「人財」とするための諸活動を展開したいと考えている。

この目的を推進するため、「一般社団法人四国地域大学ネットワーク機構」の下に「四国人財育成塾」を設置した。「四国人財育成塾」では、持続可能な地方分散型社会の基盤となる「Sustainability」、「四国遍路」という四国全体を包摂する「Cultural assets」、予想されている南海トラフ地震などの自然災害への対応に繋がる「Resilience」などをキーワードとしながら、Society 5.0を目指した産業構造の再構築などについて、多彩な分野の学術講演会などの開催を通して議論を深め、有意な人財の育成を行う。関係各位のご理解、ご支援をお願いしたい。

## 本シンポジウムの趣旨

「地域にある大学（特に地方国立大学）が、その地域で生まれ育った人の一生にどのように関わることができるのか」という観点から、リカレント教育を軸に、地域で活躍する人材の育成と地域の発展について意見を交わすシンポジウムを開催する。

近年、地方創生の観点から地方大学に求められる機能が多様化している。その中でも、地域ニーズに応じた人材を育成し地域に定着させることは、国策の中で強く言われてきたことである。また、人生100年時代に対応したリカレント教育やDX等の成長分野、新技術等の知識や技術を身につけるためのリスキリングも盛んに必要性が叫ばれている。

また、「大学を卒業して就職し、定年まで勤め上げる」という人生から、今後は、「学び（大学）と勤労の間で往還をしながら、キャリアチェンジ、副業（複業）、起業などを経験する」という人生に変わっていくだろう。地域にある大学としても、従来の高校からストレート入学する者への教育を中心とした考え方から、「全世代の住民をステークホルダーとし、さまざまな機能を発揮して、地域の活性化と住民の有意義な人生に貢献する」ことを目指していく必要がある。

このような全世代に対応した人材育成に取り組む中で、それを単なるトレンドとすることなく文化として定着させ、地域の持続的発展に繋げるために、地方国立大学に求められる機能とは何かについて、国の方針、各大学の取組みの事例等を参考に、これからの地方国立大学のあり方を考える。